

< 簡単・ご利用マニュアル / Digital WallDisplay 9200IW&IC Plus 用 >

< 1. ホワイトボード使用 >

付属のホワイトボードマーカーで、ボード上に文字を書き込みます。

< 2. 電源投入 >

Digital WallDisplay の電源を投入します。

< 3. 電子黒板モード…IC タイプのみ >

ホワイトボードに書き込んだ内容をプリンタから印刷します。

< 4. ビデオや DVD 画像の投影 >

ビデオや DVD を接続し、ホワイトボードスクリーンに投影します。

< 5. 投影モード (パソコンとの接続) >

パソコンと接続し、ホワイトボードスクリーンに投影します。

< 6. ホワイトボードモード >

付属の eBeamSoftware を使用し、電子黒板で書き込んだ内容をパソコンに保存する事ができます。

< 7. 電源切断 >

Digital WallDisplay の電源を切断します。

<1.ホワイトボード使用>

通常のホワイトボードとして使用できます。

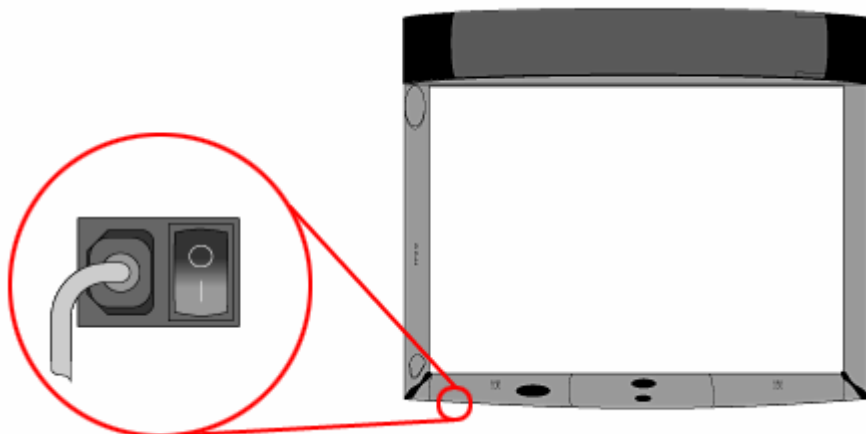
ホワイトボードとしてご使用される場合は、Digital WallDisplay 本体の電源投入や、パソコンなどの機器を接続する必要はありません。ホワイトボードマーカーでスクリーン上に書き込みを行ない、文字を消す場合は、クリーニングクロスで拭いて下さい。

<2.電源投入>

Digital WallDisplay の電源を投入します。

Digital WallDisplay の電源コードをコンセントに接続します。

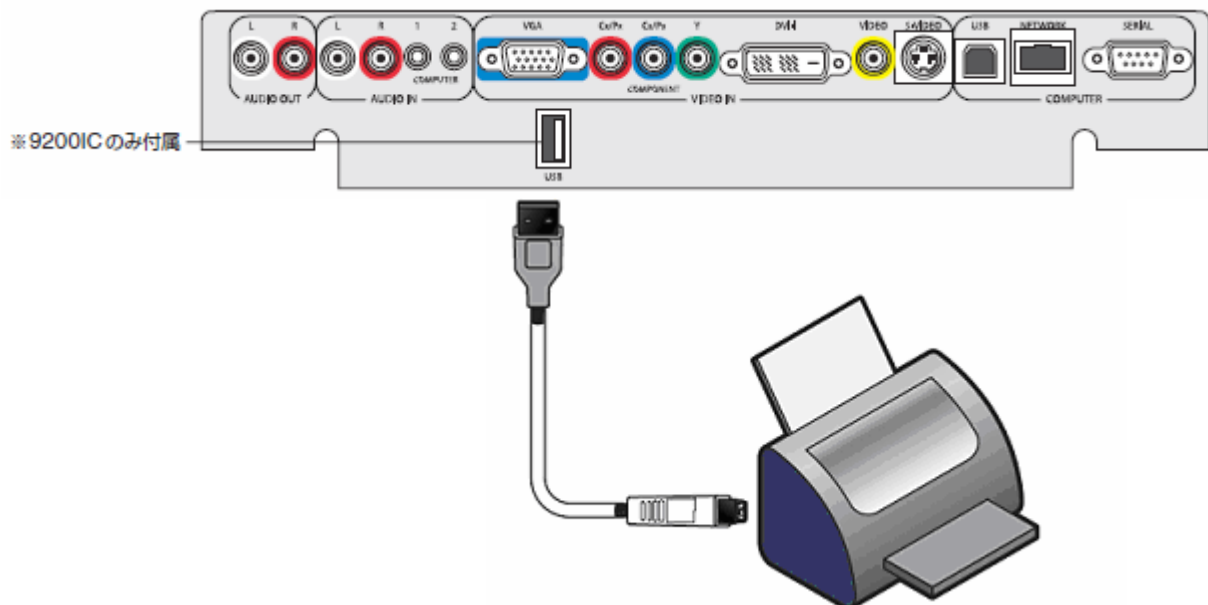
Digital WallDisplay 左下（裏側）の主電源を ON にします。



<3.電子黒板モード・・・ICタイプのみ>

スクリーン上に書き込んだ内容を Digital WallDisplay 本体に接続したプリンタから印刷する事ができます。プリンタの接続は必要ですが、パソコンの接続は必要ありません。

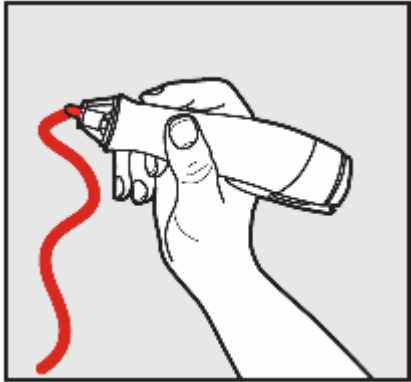
プリンタの USB ケーブルを本機の USB ポートに接続します。
本機がコンセント接続されており主電源スイッチが ON になっている事を確認します。ON/OFF ボタンは OFF でもかまいません。



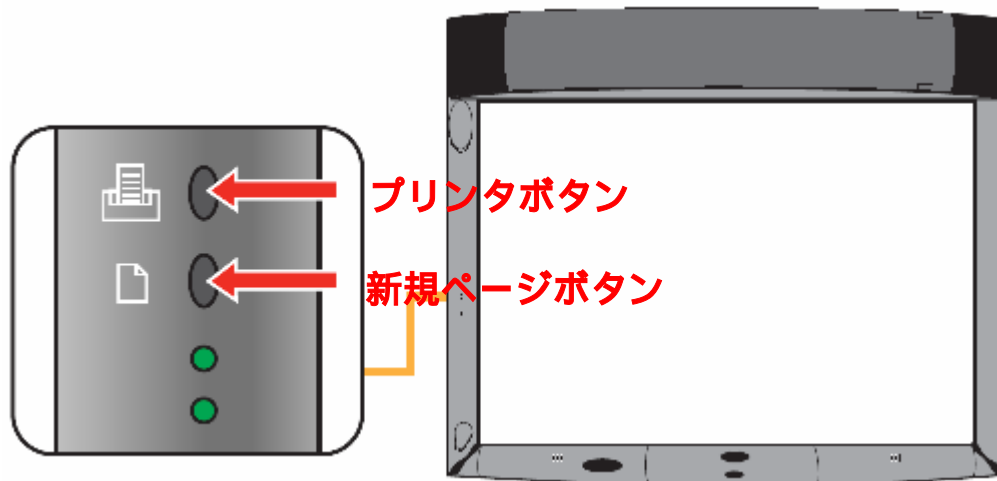
ドライイレースマーカーをデジタルペンスリーブに挿入します。



デジタルマーカーで本機のスクリーンに書き込みをします。



「プリンタ」ボタンを押して書き込んだものを出力します。



「新規ページ」ボタンを押してメモリの内容をクリアします。

パソコンと Digital WallDisplay が接続されている場合、電子黒板として作動しません。その場合、eBeam メニューにて、「ツール」から「システムの接続を解除」を行ないご使用下さい。

< 4.ビデオや DVD 画像の投影 >

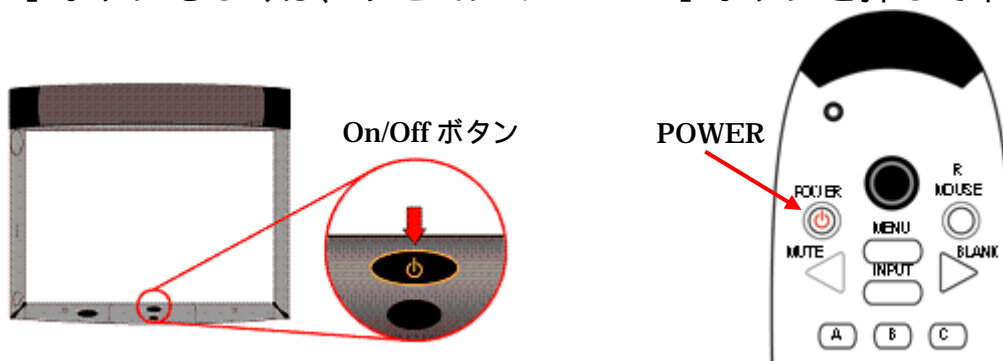
ビデオや DVD を接続し、投影する事ができます。

Digital WallDisplay 右下部にある接続パネルの S-video と Audio-In 端子をビデオ等に接続して下さい。

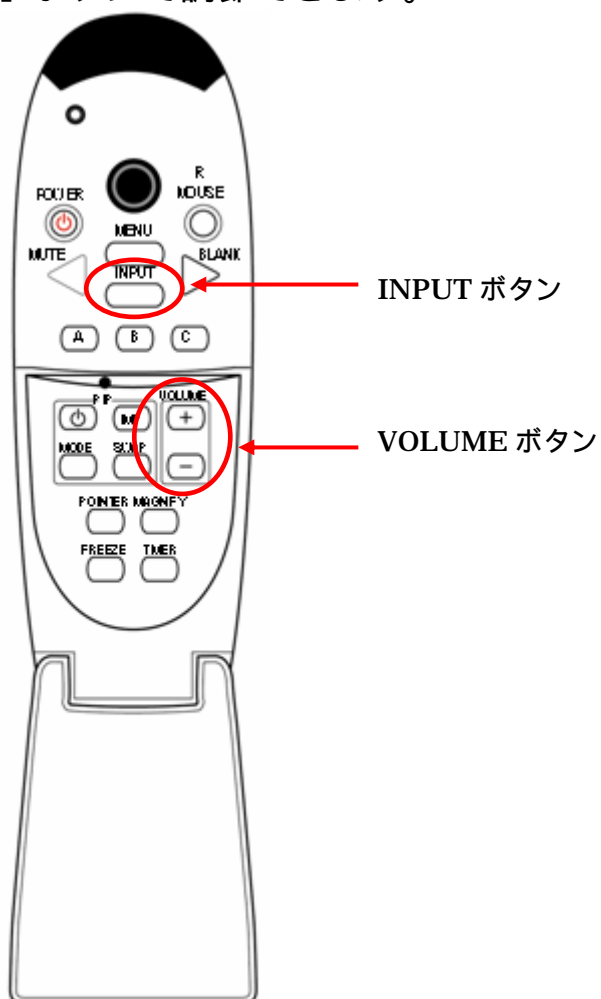
入出力パネル図

AUDIO IN	AV 機器 (VCR や DVD など) のオーディオ出力端子に接続。DVI、コンポーネント、S-Video およびコンポジットビデオ入力用の音声を供給。
VIDEO	コンポジットビデオ出力機に接続。
S-VIDEO	S-Video 出力機に接続。

Digital WallDisplay 本体の「On/Off」ボタンがオレンジ色に点灯したら、「On/Off」ボタンもしくは、リモコンの「POWER」ボタンを押して下さい。



ビデオや DVD を再生します。リモコンの「INPUT」ボタンを押すと、ビデオなどの映像に切り替わります。音量の調節は、リモコンの「VOLUME」ボタンで調節できます。



<5. 投影モード（パソコンとの接続）>

パソコン画面を Digital WallDisplay のスクリーンに投影します。Digital WallDisplay 右下にある接続パネルに、付属のケーブルでパソコンを接続して下さい。

VGA: 付属の VGA ケーブルを Digital WallDisplay 及びパソコンに接続して下さい。これは画像を投影する為の接続になります。

コンピュータとの接続は、USB で接続して下さい。


AUDIO IN - COMPUTER	コンピュータのオーディオ出力ポートに接続。VGA および DVI-D (Digital Visual Interface - Digital) 入力用の音声を供給。
VGA	コンピュータの VGA またはモニタ出力ポートに接続。
USB	コンピュータの USB ポートに接続してマウスをコントロール、eBeam 電子ホワイトボードとデータを送受信。<3M> Digital WallDisplay のリモコンまたはプレゼンテーションペンを使用。(eBeam は 9200IW/9200IC 専用)
NETWORK	イーサネットケーブルでネットワークへ接続。
SERIAL	コントロールデバイスのシリアルポートに接続。RS-232C プロトコルとシリアルコマンドを使用して<3M> Digital Wall Display のコントロールを提供。

Digital WallDisplay 本体の「On/Off」ボタンがオレンジ色に点灯したら、「On/Off」ボタンもしくは、リモコンの「POWER」ボタンを押して下さい。

パソコンの電源を投入します。

Digital WallDisplay にパソコンの画面が投影されるよう、パソコン側で画面の切り替え操作を行ないます。これは、ご使用のパソコンによってキー操作が異なりますのでご注意下さい。ご不明な場合はパソコンメーカーへお問い合わせ下さい。

例) ラップトップコンピュータを使用している場合・・・

「Fn + 」または「Fn + LCD/CRT」で表示機能を切り替える。

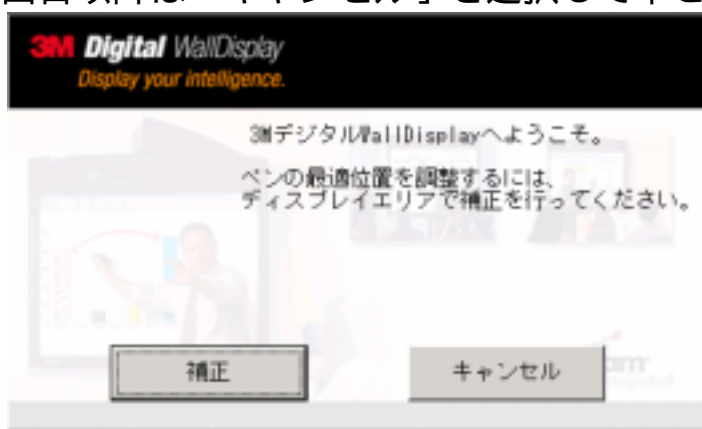
<6.ホワイトボードモード>

付属の eBeamSoftware を使用し、電子黒板で書き込んだスクリーンの内容を、データとしてパソコンに取り込む事ができます。

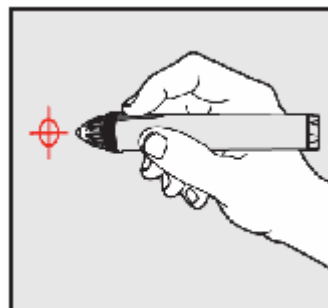
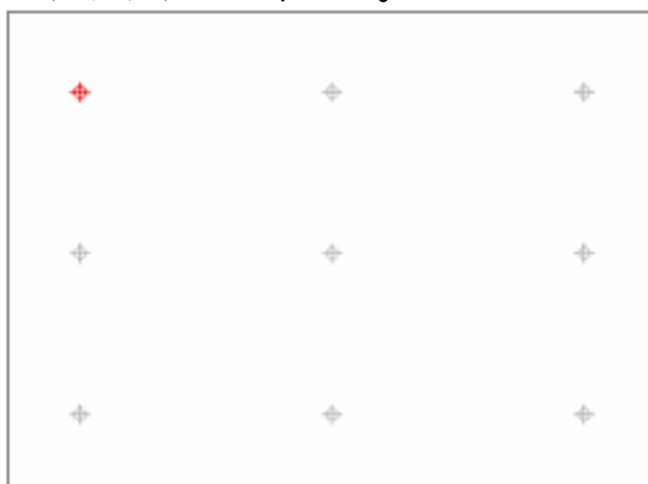
Digital WallDisplay とパソコンを接続して下さい。
詳しくは<4.投影モード>をご参照下さい。

eBeam を起動します。

下記画面が初回のみ表示されますので、「補正」を選択します。
(2回目以降は「キャンセル」を選択して下さい。)



「補正」を選択した場合、下記画面がスクリーンに表示されます。
プレゼンテーションペンで、画面の指示に従いターゲット9点をクリックして下さい。



「補正」は、前回使用したパソコン以外を接続する場合のみ行なう、プレゼンテーションペン（マウス機能）の調整操作です。
前回と同じパソコンを使用する場合は行なう必要はありません。

マウスインサートを装着したペンで、ホワイトボードに書き込みを行うか、パソコン上にてeBeam 注釈ツールでプレゼンテーションに書き込みします。

パソコンへファイルとして保存します。



このボタンをクリックし、ファイルへ保存することが出来ます。

Interactive マウスインサートについて

Interactive マウスインサートは<3M> Digital Wall Display 専用のスタイラスペンで、コンピュータのマウスとまったく同じ感覚で使用することができます。Interactive マウスインサートの各部の働きを下表にまとめました。

A ボタン (メニューボタン)		マウスの右クリックと同様の働きをします。
B ボタン (Interactive ツール表示/非表示ボタン)		Interactive ツールの表示/非表示を切り替えます。
ペン先		マウスの左クリックと同様の働きをします。
電池カバー		このカバーを反時計方向に回して開き、単三電池の着脱を行ないます。

注意：電池のリサイクル(処分)は、各地域の環境保護条例に従って行ってください。

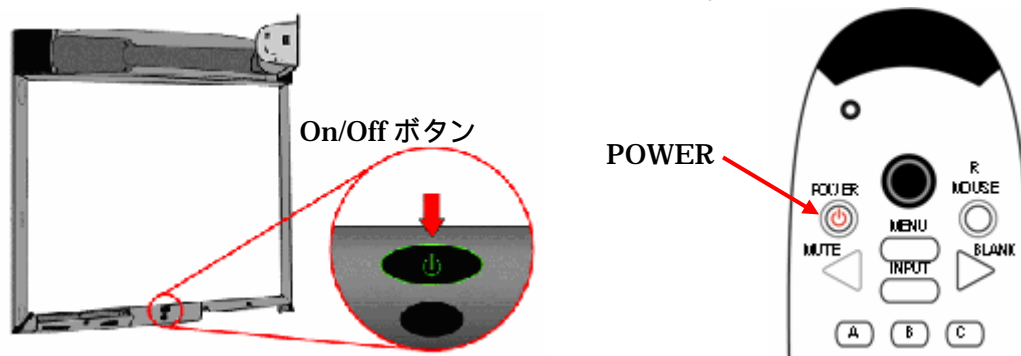


<7. 電源切断>

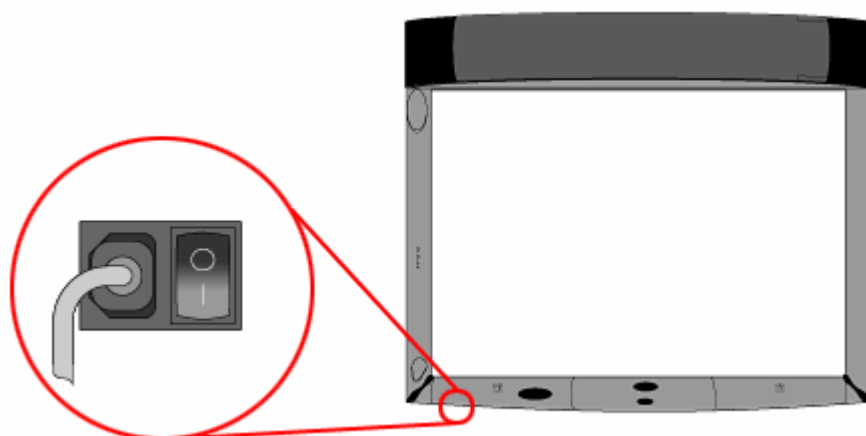
Digital WallDisplay の電源を切断します。

プロジェクター部分が開いている場合は、Digital WallDisplay 本体「On/Off」ボタンもしくはリモコンの「POWER」ボタンを押し、収納します。

「On/Off」ボタンはしばらくの間点滅します。



「On/Off」ボタンの点滅が止まり 5 分経過後、ファンの回転が止まりましたら Digital WallDisplay 左下の主電源を OFF にします。



注意

書き込み画像などがずれている場合は、以下の原因が考えられます。

【1.調整がずれている場合】

投影エリア調整を行ないます。

パソコン画面右下の、eBeam アイコンを左クリックし、「投影エリア調整」を選択します。ホワイトボード上に表示された 9 点の調整用ターゲットをマーカーフォルダーでクリックして下さい。

【2.スクリーン面に対して、ペンを垂直に使用していない場合】

Digital WallDisplay は、マーカーフォルダー先端から信号を発信し、ペンの位置を検地しています。正確な位置を認識させる為にも、ペンはなるべく垂直にご使用下さい。